

図書館だより No. 8

平成 24 年 12 月 21 日発行



2012年も残りあと僅かとなりました。今年もまだクリスマスという大きなイベントが待っていますが、ひと足先に今年1年を振り返ってみましょう。学校生活だけ振り返ってみても、様々な行事がありました。その中でみなさんそれぞれがたくさん思い出を作れたことだと思います。また、それらの行事を通して、自分の成長を感じることができた人も多いのではないのでしょうか。その成長をいい形で来年に繋げられるよう、また新たな目標を考えながら、よい新年を迎えてください。

さて、図書館は蔵書点検が無事に終了し、今日から通常開館に戻ります。点検期間中、本を借りたくてウズウズしていた人は、今日存分に借りていってください。今は冬の長期貸出中ですので、1人5冊まで借りることができます。返却日は、1月11日(金)です。いつもよりゆっくと過ごせるこの機に、普段なかなか読書の時間を作れない人も本に触れる時間を作ってほしいなと思います。「こういう本が読みたい！」と希望を伝えてくれれば、ぴったりの本を探すお手伝いもしますので、司書に声をかけてください。

クリスマスには腕をふるって*

596-オ『スポンジケーキの本』 荻田 尚子 || 著 河出書房新社

スポンジケーキを作るのって難しい。でも、その分、綺麗に焼き上げることができたら、ちょっとかっこいいですね。この本では、しっとり、ふんわり、ざっくり、ずっしり、もっちり5種類の生地で作るスポンジケーキのレシピを紹介しています。同じスポンジケーキでもそれぞれ異なった食感が楽しめるので、全部の生地を試して、自分の好みを見つけてみてください。アレンジレシピも充実していて、用途に合わせて、気軽に作ったり、本格的なものに挑戦したりができます。

冬休みにはのんびりと*

594-レ『手編みのかわいいてぶくろ』 ブティック社

2年生が家庭科の授業でマフラーなどを編んでいましたが、それをきっかけに「編み物って楽しい」と感じた人も多いのではないのでしょうか。自分だけのオリジナルが作れるというのは嬉しいですね。せっかくでするので、お次は、てぶくろにもチャレンジしてみませんか。五本指のもの、ミトン型のもの、アームウォーマーと型も充実していますし、かわいい模様のももたくさん載っていて、どれを編んでみようかなと悩んでしまいます。自分用に作るのもよし、贈り物にするのもよし、たくさん編んでみてください。

図書館カレンダー

12月

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館日 閉館日

開館時間 * 8:50~17:00 ※1月8日(火)より通常開館

2012 これを読まなきゃ終われない!!

748-7『MOTHER TOUCH』 渡部 陽一 || 著 辰巳出版

12月14日に本校にて講演をしていただいた戦場カメラマンこと渡部陽一さんの写真集です。人の命が戦争で消えていくという悲しみ、戦争という非日常の日常で子どもが育っていくという恐ろしさ、食べ物があるという喜び、家族がいるという安心、私たちが知らない戦争という中から、たくさんのものが伝えられています。この写真を撮ってきた渡部さんの言葉から、そして、写真に写る人々の表情から、一枚一枚の写真が深く重いものであることを感じ、平和への思いを強く持つてほしいと思います。

E-ミ『絵本 地獄』 宮 次男 || 監 風濤社

しつけに効果絶大だとして、子どもをもつ父母を中心に今年大ヒットした絵本です。“死”のこわさをこの絵本で知ることによって、その恐怖を回避するため‘良い子’にならなければいけないという単純な本ではなく、“生きること”への喜びに気づき、生命のありようを尊ぶきっかけになる本です。バーチャルな世界に慣れ親しんだ私たちにとって、“死”はあまりにも簡単で手軽な事象のように思えることさえあります。“死”のこわさへの畏敬を見失っているのです。江戸時代に描かれた絵巻をもとに描かれたこの絵本をよんで、ぜひ今年の自分を振り返り、新しい気持ちで新年を迎えてください。

1冊の本から繋げよう

今月の1冊は…

『ソロモンの偽証』三部作の出版が今年話題となった宮部みゆきさん。中学生たちが一人の同級生の死をきっかけに、多くの疑問や葛藤、苦悩の中へ迷い込み、そして、自らの手で真相を見つけるため学内裁判を起こすといったストーリー展開は、総ページ数が2178ページというボリュームながら、読み始めると止まりません。今回は、そんな実力のある作家 宮部みゆきさんの『ステップファザー・ステップ』から本を繋げていきます。

913.6-ミ 『ステップファザー・ステップ』 宮部 みゆき || 著 講談社

プロの泥棒がとある仕事の途中、まさかの落雷で屋根から落ちるといふ災難に見舞われる。彼が次に目を開けた時、そこには同じ顔がふたつ！頭を打ちすぎたのかと思いきや、それは紛れもない双子の実像だった。

「ねえ、前科あるんでしょ？、まずいよね？」「またムシヨに入るの、イヤじゃない？」

かわいい顔を揃えて、泥棒に脅し文句をぶつける双子。聞けば、双子の両親は共に駆け落ち(!)中。生活費も底をつき始めてきたところに、屋根から泥棒が落ちてきた。双子は、この泥棒にお父さんの代わりをし、ついでに生活費も工面してくれと、とんでもない要求をしてきたのだった！

しぶしぶながら助けてもらった借りを返すため、双子の要求を呑む泥棒。「なんで、俺がこんな目に…」と思っていた泥棒だけど、「お父さんお父さん」と懐く双子の直と哲のペースにのまれ、気づくと親子のふりが、なんだか本当の親子のようになっていく。そんな三人の奇妙で、でも微笑ましくて、あたたかい暮らしぶりに読んでいて、心がホッとします。



『ステップファザー・ステップ』 キーワード1
“裏稼業” ~とんでもない職業で暮らしています~

913.6-ミ 『カラスの親指』 道尾 秀介 || 著 講談社

暗い過去を抱え、敢えて悪人としての生きる道を選んだ詐欺師のタケ。ひよんな事件から出会ったテツとコンビを組むようになった。頼りないけど、憎めないそんなテツとのコンビは案外うまくいっていたが、ふたりの住む部屋で不審火があがる。狙われていると感じたタケはテツと共に拠点を变えるが、そこで今度は自分のせいで母親を失った少女ましろに偶然出会う。住む家を無くしたましろを放っておかず、同居させると、そこに姉とその恋人がくっついてやってきて、タケの周りは瞬間に大所帯に。奇妙な縁で集まった5人はそれぞれが持つ暗い過去と決別をするため、手を組み、大勝負に挑む。騙し、騙され、最後に待つのは衝撃の事実！この結末には、びっくりすること間違いなしです。



『ステップファザー・ステップ』 キーワード2
“双子” ~彼らの深いキズナ~

913.6-シ 『クローバー』 島本 理生 || 著 角川書店

冬治(とうじ)には双子の姉・華子がいる。大学生のふたりは現在、アパートで2人暮らし。濃厚で優しい、いわゆる草食系な冬治と、我も負けん気もとびきり強い華子(ただ、それは冬治の前でだけ)。顔は瓜二つだけど、正反対の性格の2人の物語。

冬治は何かと恋愛の厄介ごと巻き込んでくる華子にうんざりしながらも、最終的には面倒をみていながら、華子にははっきりない冬治の背中をガツンと押して世界を広げている。ぶつかって、罵っているながらも、そんな風に深いところでは、お互いを気遣って大切に思っている二人。兄弟よりもさらに固い絆があるのが感じられて、2人の関係がとてもうらやましくなります。二人の掛け合いも楽しいのですが、もうひとつ、楽しみなのが2人の恋の行方！！ドキドキしながらその行方を見守って読んでください。



そして、
宮部 みゆきさんの作品を「もっと読んでみたい！！」と思った人には

913.6-ミ 『長い長い殺人』 宮部 みゆき || 著 光文社

この話の主人公はなんと、お財布！

刑事の財布、探偵の財布、目撃者の財布、犯人の財布…、様々な人物の財布が登場します。そして、これらの財布はある一連の事件で繋がっています。容疑者はあがっているのに、証拠が見つからない。そんな事件の核心を語るのが財布たちです。持ち主のそばにいつもいる財布だからこそ、知っている真実がいくつも出てきて、「そこまでわかっていたら、大きな証拠になるのに！」と思ってしまうのですが、財布は財布、誰にも知らせることはできません。そんな財布の歯がゆい気持ちを財布になった気分を読めるというちょっと変わったおもしろさのあるミステリーです。

財布はそれぞれが持ち主の身を案じ、事件の解決を祈っています。持ち主を気遣う財布の様子を読んでいると、自分の財布は自分をどんな持ち主だと思っているんだろうと、ちょっと考えてしまいます。